

# 大阪

## おおさか支局

〒530-8251 (住所不要)

毎日新聞社会部おおさか支局

TEL06・6346・8443

FAX06・6346・8444

メールはat-osaka@mainichi.co.jp  
読者の皆さんの取り上げてほしいテーマなど、お寄せください。

### 【購読お申し込み】

フリーダイヤル 0120-468012

### 星の占い マーク・矢崎 30日

★牡羊座 (3・21~4・19) 向こう見ずな行動に出そう。何事も慎重さを忘れずに。  
★牡牛座 (4・20~5・20) 中傷で傷つきそう。騒ぎ立てるより平静さを保って吉。  
★双子座 (5・21~6・21) 遊びにツキあり。気心の知れた友達が幸運の鍵に。  
★蟹座 (6・22~7・22) 疲れやすいと。ウオーミングアップを大切にすること。

★獅子座 (7・23~8・22) 遊び心が幸運の鍵。仲間と何かで張り合って幸運。  
★乙女座 (8・23~9・22) 恋人との仲が移ろいそう。思い切った行動が解決の鍵。  
★天秤座 (9・23~10・23) 初挑戦が幸運の鍵。何かを覚悟して幸運につながるそう。  
★蠍座 (10・24~11・22) イヤなことあり。逃げるると大きなトラブルに発展も。

★射手座 (11・23~12・21) 友達の協力でトラブル解消。コネが幸運の鍵になりそう。  
★山羊座 (12・22~1・19) 目上から注意を受けそう。厳しい相手ほど大切な人です。  
★水瓶座 (1・20~2・18) 良い評判が立ちそう。善い事は積極的に行動して吉。  
★魚座 (2・19~3・20) 天気が運気を左右しそう。雨具を忘れないように。

## 子どものこと第一に

元次官 前川喜平さん

霞ヶ関で仕事をしている現役時代に、大阪のような実践の積み重ねがあることをもっと知っておくべきだったと反省している。首相官邸や永田町ばかり見ていると多文化共生社会からどんどん遠ざかってしまう。上司や教育委員会、保護者もいるが、教師は目の前の子どものことを第一に考えることが大事。コロナ禍だが、休校で減った授業時数を取り返すのではなく、豊かな学校生活を取り返そうと考える。授業ができない分を家庭に押しつけるのもよくない。学力テストの弊害は大きい。子ども、先生、学校、自治体まで競争に追い立てられ、共に学び、育つ環境をつくれない。共生からかけ離れていく。テストでは計れない大事なものがあ



シンポジウムで討論するパネリストたち

まえかわ・きへい  
現代教育行政研究会代表。東大法学部卒業後に文部省に入り、大臣官房長や初等中等教育局長を経て、文部科学事務次官。自主夜間中学のスタッフも務める。

## 共に学び、育つ観点を

向井さんの歩みを聞き、自分の障害者観を改めて振り返る機会を得た。松原高校では、障害のある子どもを、籍は置かないものの週に数日通う「準高生」として受け入れた。その子どもも周りの子どもとの関わりで変化し、冗談も言えるようになった。周囲もそれを当たり前に受け止めるようになった。府教委ではその経験も踏まえ、高校進学を



大阪教育大副学長 和田良彦さん

希望する知的障害者のための「知的障がい生徒自立支援コース」の設置に携わった。前川さんがそのことを評価してくれ、今日はすごくうれしい。このときの事業報告には思いを込めて「共に学び、共に育つ」という言葉を使った。子どもたちにはこの観点をもち育ってほしい。それが国際的感覚につながるかと確信している。

# 個人の尊厳 命を守る教育を

一人一人が大切なかけがえのない存在であり、人間らしく自分らしく生きる権利がある。自由、幸せが何より大事で、その根源にあるのは命。沖繩の言葉ぬちどぅ宝(命こそ宝)は個人の尊厳と一致した言葉だと思

## 天王寺で府民夏季セミナー

大阪の教育や文化振興について考える「第7回府民夏季セミナー」子どもたちの未来に夢と希望をー(府教職員互助組合・毎日新聞社主催、府教委後援)が2日、大阪市天王寺区の府教育会館で開かれた。元文部科学事務次官の前川喜平・現代教育行政研究会代表が「個人の尊厳から出発する教育論」と題して講演した。さらに、生まれつき手足がない障害があ

## 前川氏講演 自分らしく生きる権利



基調講演する元文科事務次官の前川喜平さん(いずれも大阪市天王寺区で、大西達也撮影)

一人一人が大切なかけがえのない存在であり、人間らしく自分らしく生きる権利がある。自由、幸せが何より大事で、その根源にあるのは命。沖繩の言葉ぬちどぅ宝(命こそ宝)は個人の尊厳と一致した言葉だと思

## 休校、教育格差拡大を懸念

府教職員互助組合 後藤なつき理事長



新型コロナウイルスに伴う学校の休業で、教育格差がさらに拡大したのではないかと現場は感じている。ネット環境が十分な子どももいれば、環境の整っていない子どももいた。学習の遅れは時間があれば取り戻せるが、この数カ月間に育まれるべきさま

まな感覚や人間関係の構築は大きな問題となり、今後も影響が続くのではないかと。首相が急に休校を要請し、教員が説明しても日本語が不自由な子どもは状況が理解できず、マイノリティーの子どもにとっても厳しい生活だったのではないかと憤りを感じる。今日は、これまで出会った多くの子どもたちの顔を思い浮かべながら、大阪の教育について考えた

## 生きやすい社会伝える



手足を持たずに生まれてきた私の歩みを伝えたい。地域の保育所に通い、小中学校も通常学級で過ごした。私に腕で「指さされた」子が鬼になるルールで鬼ごっこにも参加し、運動会や音楽会にも参加した。受験した近くの府立高校は合格しなかったが、定時制高校に進み、生徒会役員も務めた。大学へも科目等履修生として4年間通った。

## 劇団「態度」役者 向井望さん

友達や先生の工夫によって何にでも挑戦してきた。「態度」には6歳からエキストラとして参加、高校3年生のとき役者になった。現在は地下鉄やバスで、作業所に行ったり友だちと出かけたりにしている。飲み会で「乾杯」もする。私の体験を通して、共に生きる社会が誰も生きやすい社会だと伝えたい。

## 境界から学びの実践を



「境界」を基に話したい。私の両親のルーツは朝鮮半島で、釜山から来日した1世の母には識字の問題があった。前川さんの話にもあった夜間中学に通い、初めて文字を学んだ。中学校の人権学習と呼ばれても、「昔のことを言われても今の自分に関係ない」と言う生徒も多い。一方、大学のゼミで学ぶベトナムルーツの女子学生は、日本語が全くできない両親

## 文教大准教授 孫美幸さん

そんなみへん  
文教大国際学部准教授。2000年に京都市立中で初の外国籍教員になる。退職後、大学院で学び、著書「境界に生きる」が14年に部落解放文学賞を受賞。

の通訳をしている。本人の夢もあるのに、全ての負担がかかる。その切実さと「人ごと」との温度差に悩む。境界から学びの実践をつくれな。コロナ禍のなかでゼミ生たちは韓国の学生とオンラインで交流した。「こういう時代だからつながれた」と。こうした学びの場を創造できればいい。